

# INSPIRE No.16

## イベント

### 第15回GSGミーティング

日時：4月24日（日）

時間：13:00 - 16:00

場所：スクエア荏原

（武蔵小山駅徒歩10分）

東京都品川区荏原4-5-28

対象：保護者・教育者

費用：5,000円

テーマ：第3回ギフトッド教育カンファレンス2016についてお話ししながら、ギフトッドの子育てについて話し合います。

申し込み：[office@jagifted.org](mailto:office@jagifted.org)

日本ギフトッド協会事務局



「Push Push Push」ギフトッドの子供たちの快適ゾーンは狭い子が沢山いる。でも、快適ゾーンの外に出て初めてそこから自分の成長が始まる。今年の夏はどんな機会を設けていますか。子供たちが心身ともに快適ゾーンから出る機会がありますか。それをプッシュしてくれる仲間や大人が周りにどれくらいいますか。ギフトッドは本当に多才。子供たちが一つの分野での素晴らしさに満足せず、どんどん素晴らしい自分に出会えるように探求していく事を Push Push Push!!!!

## お知らせ

第3回ギフトッド教育カンファレンス2016

**5月28日・29日** 第3回ギフトッド教育カンファレンス

@ スクエア荏原 [jag2016.peatix.com](http://jag2016.peatix.com)

サマーキャンプ(8月上旬)

今回はアメリカ人の大学生がギフトッドの子供たちの為にサマーキャンプを計画しています。詳細は4月にアナウンスします。

ギフトッドアドボケイター養成コース

2016年秋に開講！保護者・教師のためのギフトッド講座が始まります。詳細は4月にアナウンスいたします。



## 大予言

大予言＝ノストラダムスの大予言、と結びつくのは同世代の方でしょうか？1999年に起こるであろう恐怖の大予言（起こらなかったが…）！「恐怖の大王＝人類を滅亡させるものはなにか？」幼かった私は、胸がドキドキして本当に将来が恐ろしくなった事を覚えている。だが、今回の予言は違う。16世紀のノストラダムスではなく、21世紀の横浜中華街のとある手相占い師。2016年に起こるであろう息子の大予言。

占い師「あら～お母さん、この子は天才ですね！しかも、銀のスプーンをくわえて生まれて来ているわ。お金にはまったく困らない人生よ！」

息子が天才？銀のスプーン？大予言は11歳11ヵ月春休みの出来事。小学校はかるうじて通えていた息子。発達障害っぽい？けど、医師は診断を下さなかった。母子してドンヨリしていた、小学校生活真っ最中の横浜旅行。息子の事や今後の人生を、たかが占いになぜ褒めちぎるのか？根拠はなにか？でもその一言で、暗かった私は、胸がドキドキして本当に将来が楽しみになった事を覚えている。

占い師「ただしお母さん、この子の天才ブレイクは16歳からね！」

私 「オイー——ッ！4年後ですかいっ！天才＝神童なら、今でしょっ！」

思わずツッコミを入れる私がいた。でもって意外と素直な私、大予言がキッカケで大復活を遂げた。天才と名のつく本を、片っ端から読み漁った。そして、ついに見つけた息子のキーワード、それは「ギフトッド」。あの大予言から早4年、2016年4月いよいよ息子は16歳になる！



- M.I

## 学級崩壊はなぜ起きるか？（後半）

学級崩壊を防ぐにはどうしたら良いのでしょうか。これは私なりの一つの結論です。

そもそも教育とは「教師が出した課題を達成したかどうか」が重要なのでしょうか。私はそうは思いません。確かに教師は子どもに課題を出します。それは子どもたちに「これはあなた達が現代社会で生きていくために必要な課題です」というメッセージとして伝わります。しかし、課題に取り組むのは本人次第です。人間の能力はかなり個人差があるため、容易に達成出来る人も達成に時間がかかる人もいるのは当然です。大切なのは課題を達成出来たかどうかではなく、自ら課題に対して前向きに取り組み続けられるかだと思います。

次に、子どもが苦痛や危険を乗り越えるには、教師や親が見本を示さなければなりません。昔は「苦勞は買ってでもしろ」と言われました。教育の場にトラブルは必然ですし、必要です。一個一個のトラブルを大切に乗り越えていくことが、子どもたちを賢く、優しく、強くしていきます。子ども同士の喧嘩やいじめに対しても、時にはあえて大人が介入しない方が良い時もあるでしょう。子ども一人一人の能力、気質、経験から、大人が子どもに対して何が出来るかを考えます。子どもとの心理戦も必要です。大人は安易に介入するより悩むことや忍耐が必要になるでしょう。

教育の場において重要なのは目に見えない「空気」です。「自分たちは課題を達成出来たかで評価される訳ではない」「大切なのは自らの意志で前向きに生き続けること」「多少の苦痛や危険を乗り越えることで、自分達は賢く、優しく、強くなれるんだ」ということが感じられる環境です。そのような「空気」を作るには、親や教師が何を言ったか、何を言わなかったか、大人がどのような見本を示しているかが重要になります。その空気が学級崩壊を防ぎます。

抽象的ですが、これが私が得た結論です。皆さんはどう考えますか。

-すくすくクリニック 新井



先月、アメリカのカリフォルニア州サンフランシスコベイエリアにあるギフトッドのための中学校に密着取材に生徒たちと行ってきた。校長もスタッフも私たちが歓迎してくれた。滞在中はギフトッド教育を提供する学校はどうあるべきかを確認した。ギフトッド教育を提供する学校は機関ではなく、コミュニティという意識が高くなくてはならず、コミュニティが一つになっていくにはどういったクラスがカリキュラムに組み込まれていて、どんなコミュニティイベントがあるかを考えてなくてはならない。例えば感情知性のクラス。感情知性のクラスではミルトン先生が「セルフサイエンスのクラスは守秘義務があるから、ゲストがクラスに参加するという事は稀だが、参加の有無はみんなが決めれば良い」と生徒たちに聞いた。6年生、7年生は快諾だったが、8年生は前半だけオッケーをもらった。円に座った子供たちが「私は「嬉しい8」」とか「イライラの9」とか、今の自分の気持ちの状況を共有していく。その後、生徒がお互いに「なんでイライラしているの」など、それぞれの気持ちに対して質問していく。その後「問題解決したい課題」があるかどうかを先生が聞く。すると、数人の生徒が手をあげて、先生はノートに手をあげた生徒の名前を書いていく。中身は守秘義務があるので話す事はできないが、かなり深刻に悩んでいる子もいた。先輩後輩の関係性に悩んでいて、それを他のクラスメートが我が身のごとく、親身に考え解決策を提案していく。上の学年のクラスではクラス運営について議論していた。これから先輩になっていくのに、クラスがうるさく、先生の話も聞いていない時があると、指摘する生徒がいた。これについては、クラス全体の課題なので、長い時間を費やし、生徒たちは議論していた。大切なのはtalk the talk and walk the walk- 言った事をしっかり実践する」という事だ。問題解決策が話されていても、それは実際にやってみないとわからない。実際にやったところで、また修正すれば良い。実はこれは子供にだけ必要なスキルでなく、大人も習得しなければならないスキルだ。こういった事を週1で3年間も同じメンバーでできる環境は「お互いの違いを楽しめる環境」を生み出していく。

- 今瀬 博



日本ギフトッド協会が主催する初めてのギフトッドサマーキャンプのお知らせです。  
そのタイトルは「旅する人形劇団~夏季限定」！！！！

ギフトッド教育を受けたアメリカ大学生のブリアーンさんが企画。今はコロンビア大学で自分の情熱に猛進中。一昨年、来日した時にギフトッドユース★スピークアップという場でギフトッドについて話してから、ずっと日本のギフトッドの子供たちと活動したいと熱望。この間、「日本でギフトッドのサマーキャンプやりたい！」と連絡がきた。私は「やってみたらいいさ」と即答。まずは、「なぜサマーキャンプを開催するか」について話し合った。そして、「なぜ、ギフトッドの子供たちが対象なのか」「小学生の子供を対象にしたい」と話すと、「ギフトッドの恐怖」について語りだした。特にギフトッドの子供たちが小学校で湧き上がる感情。

それは「Boredom~退屈感」

ギフトッドの子供たちにとって、これ以上の恐怖はない。

ほとんどの場合、学校で「意味と意義」が見いだせない事をしなくてはならない。ここで間違えてもらいたくないのは、退屈しているギフトッドの子供たちがクラス内で行われている授業を全部理解し、マスターしているわけではないという事。自分の興味のない分野かもしれないし、苦手な分野かもしれない。もしかしたら、学びへの情熱の灯火が消えかかっているのかもしれない。しかし、湧き上がってくるのは学びへの情熱ではなく、退屈感の場合が多い。

ギフトッドの子供たちはどうやって「退屈感」と向き合っているのだろうか。もしかしたら、素晴らしい想像力を駆使して空想にふけているかもしれない。抑えきれないエネルギーのせいで、立ち歩いて、クラス内の面白いものを探しているかもしれない。マシンガントークで、先生に質問を投げつけているかもしれない。

世の中、面白い事は山ほどある。面白い事は創造できる。ただ、枠の外の思考や活動が制限される学校現場では、何をしても意味がないものと感じてしまうかもしれない。そういったギフトッドの子供たちは自らの知的好奇心を探求する事になれていないので、与えられるのを「つまらない」と、待つ事に慣れていくのかもしれない。0から1を作り出すのに恐怖を覚えるかもしれない。まだ未知の領域へのチャレンジかもしれないから失敗への恐怖があるのかもしれない。

そういった事を普段感じているギフトッドの子供たちに私たちは、「思う存分にユース時代を楽しんでもらいたい！！』」と思い、ギフトッドサマーキャンプを開催したい。ここで会う子供たちはきっとこのサマーキャンプ外でもつながっていく事だろう。

まったくどうなるかわからないが、ワクワク感はハンパない。

そこで夏季限定劇団員（サマーキャンパー）募集です。

定員：先着10名

年齢：8歳から15歳まで

期間：8月3日から8月7日

活動場所：東京近辺

参加費用：95,000円

詳細はoffice@jagifted.org サマーキャンプ事務局までお問い合わせくださいませ。

